

発 刊 に よ せ て

今年も、厳しい暑さの中、各施設から選ばれた発表者や紀要掲載者は、自身の研究をまとめ上げるために研究レポートのまとめ方を基本に立ち返って学びながら何度も何度も書き直しをし、やっと納得のいくレポートに仕上げました。今回で21号となる研究紀要は、該当者の汗と努力の結晶として発刊の運びとなりました。

2年に一度ずつまとめ上げる一人一研究レポートは、愛護会が、福祉事業の基本方針としてそれぞれの事業部会が掲げ進めてきている研究と実践を実のあるものにするために、愛護会職員として歩み始めた時から当然取り組まなければならない責務と全職員が受け止め、42年という長い歴史を積み重ねてきました。この創立より一貫して続けられてきている研究と実践の在り方は、職員一人一人の力量を確実に高め、自信と誇りを持ち、子供たちの健やかな成長と利用者のニーズに応えながらのよりよい保育者、支援者として歩み続ける力になってきております。正に職員の資質向上のための大きな柱になっており、愛護会が他に誇れる財産でもあると考えております。

今回は、特にも障がい者援護事業部会に於いては、新体制への移行に伴い利用者の生き甲斐を保障するために、利用者のニーズに応えながらどのような支援をしていったらよいのか、という課題に主任クラスの職員自らが研究の先頭に立ち、研究レポートをまとめ上げ、発表者の役割までも引き受けましたが、その積極的な姿勢が施設内の職員に良い影響を与え、自らの課題を持ち、研究に取り組む職員の姿勢を作っていくことに繋がっていくと確信しております。

また、今までなかなか研究に馴染まなかった本部職員の研究レポートも今回の紀要に掲載されることになり、公開研究会の場で発表も行います。

これからも、今まで積み上げてきた実績を誇りにしながら、前向きに課題に取り組み、研究しながら実践し、出てきた課題に積極的に挑戦するという常に学び続ける姿勢を持ち、次回こそ選ばれる研究に仕上げたいとの思いを持ちながらお互いに切磋琢磨し合い、努力し続けてほしいと願っております。

最後になりましたが、研究レポートを提供いただきました職員の皆様と直接指導に当たられました愛育研究所事務局員、係わって下さった関係各位に心より御礼申し上げ、簡単ですが、発刊にあたっての挨拶といたします。

平成26年 8月

愛 育 研 究 所
所 長 及 川 紀 美 子